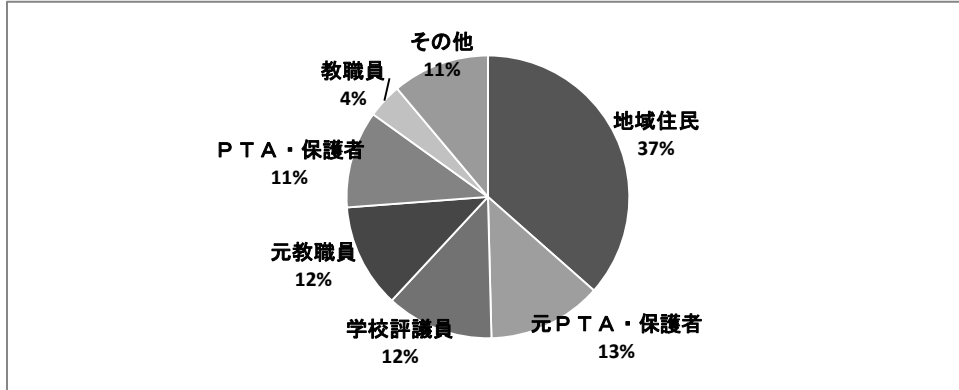


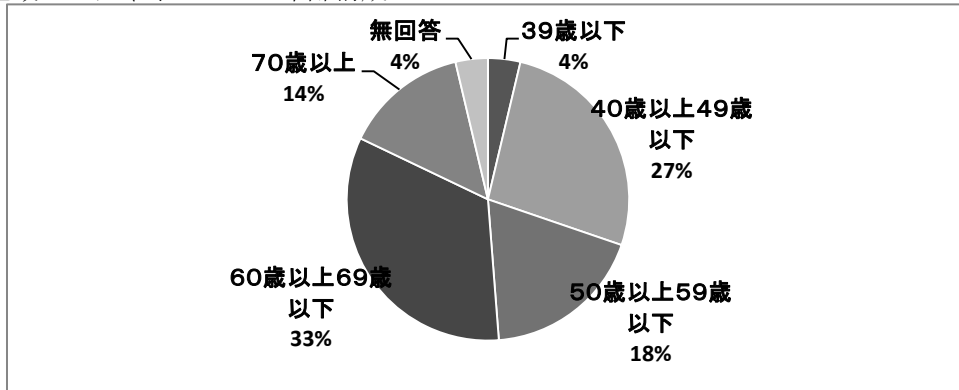
【地域コーディネーター】

★奈良県学校・地域パートナーシップ事業（以下、パートナーシップ事業という）に携わる地域コーディネーターの現状について

(1) 地域コーディネーターの所属について



(2) 地域コーディネーターの年齢構成



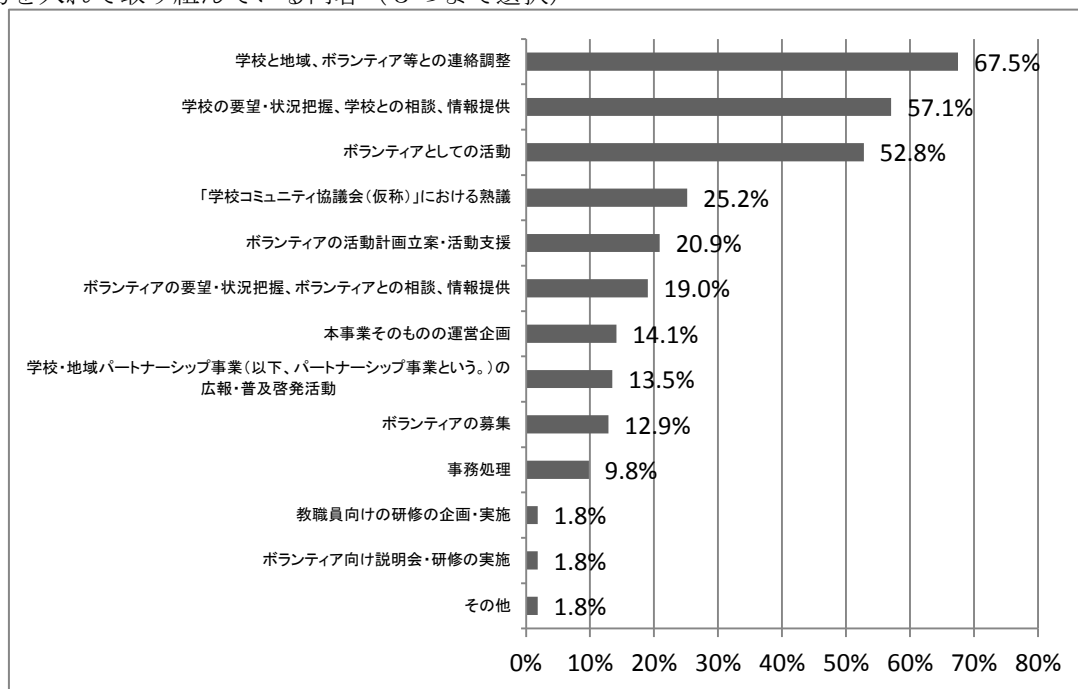
- | | |
|-------------------|-----------------|
| (3) 学校支援ボランティアの人数 | 55.4名（昨年55.3名） |
| (4) 経験年数 | 3.4年（昨年2.9年） |
| (5) 1か月の平均活動時間数 | 11.3時間（昨年9.4時間） |
| (6) 1か月の平均学校訪問回数 | 4.3回（昨年4.1回） |

★パートナーシップ事業の効果について

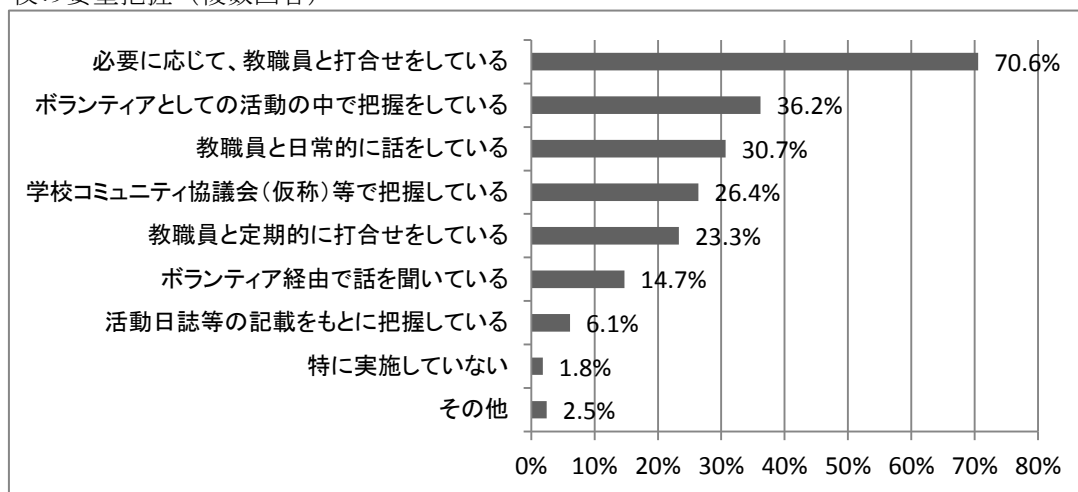
- (1) パートナーシップ事業に参加して、どのような効果があったと感じていますか。（P 8 参照）
- (2) 次の項目が、パートナーシップ事業の効果に結びついているかどうかについてお答えください。（P 8 参照）

★地域コーディネーターの活動状況について

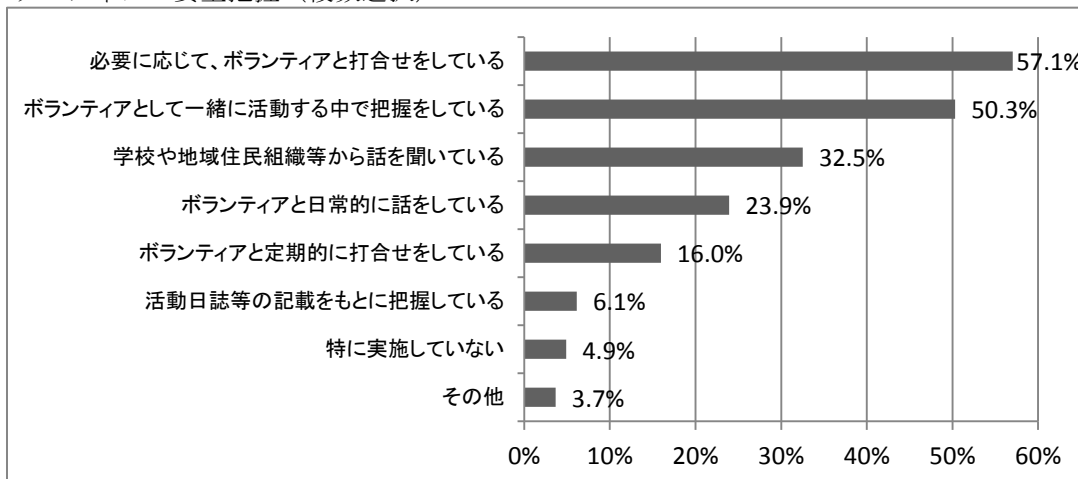
(1) 力を入れて取り組んでいる内容（3つまで選択）



(2) 学校の要望把握（複数回答）



(3) ボランティアの要望把握（複数選択）



結果分析と最終まとめ

★ 地域コーディネーターの現状

- コーディネーターの経験年数は、平均3.4年。最長16年。(昨年は、平均2.9年)
- 学校支援ボランティアは、地域の実情に応じて募集、協力願っている。(1~710人)
- コーディネーターは、月平均11.3時間の活動を行っており、4.3回程度学校を訪問している。(昨年は、月平均9.4時間の活動、4.1回程度学校を訪問)
- コーディネーターが力を入れている活動は、
 - ①学校と地域・ボランティア等との連絡調整
 - ②学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供であり、コーディネーターが重要な役割を果たしている。
- 昨年と同様、コーディネーターの約半数が、ボランティアとして活動している。
- 学校との打合せについては、必要に報じて学校と打合せを行っている方が約7割おり、教職員と日常的に会話して学校の要望を把握している方は約3人に1人と昨年とほぼ同様の結果となった。
- ボランティアの要望把握については、打合せを行うほかに、共に活動することや日常的な会話等を通して行われている。

★ 取組の効果

効果実感の高い主な内容は、以下の通り

- (1) **子どもの変容**
子どもたちのあいさつやコミュニケーション力の向上などに昨年同様高い効果実感があつた。
- (2) **大人の変容**
学校に対して、地域の人々の関心が高まったり、保護者の理解が深まったりしたなどに昨年同様高い効果実感があつた。
- (3) **諸活動の充実**
子どもたちの通学時の交通安全や防犯体制、ボランティアの学習支援により教育内容が充実したなどに昨年同様高い効果実感があつた。

★ 主な成果と課題

- コーディネーターとして、学校の要望とボランティアの要望を把握し、互いがwin-winの関係をつくり出すことに一層力を入れることが求められる。
- 教職員の協力体制の充実により、コーディネーターのやりがい生まれ、活動もスムーズに行えている。
- コーディネーターが苦勞している点は、
 - ①ボランティアの人材不足、高齢化
 - ②連絡調整の方法
 - ③PTAの理解と協力
 - ④学校の管理職の異動による学校の対応の変化など

4 その他

- パートナーシップ事業継続の要望が多数あり。